

論 文 内 容 要 旨

3歳児のう蝕の有無とその影響要因の地域格差

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

口腔衛生学講座 石田 直子

(指 導： 荒川 浩久 教授)

論文内容要旨

現代は格差社会といわれ、う蝕にも格差が存在している。う蝕の地域格差には、所得などの社会経済的要因もあるが、生活習慣等の要因による影響も考えられる。そこで、神奈川県データを材料として、う蝕ならびにそれに影響を与えると考えられる生活習慣等の要因の地域格差の有無、および地域ごとでう蝕に影響を与える生活習慣等のリスク要因の種類に違いがあるかを探索するために研究を行った。

2011年県民歯科保健実態調査のうち、14市に居住する4,047人（男児2,055人、女児1,992人）の3歳児を対象とした。今回の分析に用いた質問内容はう蝕の有無と性別、出生順位およびう蝕に影響を与えると考えられる生活習慣等とした。う蝕および生活習慣等の要因の地域差の有無と市ごとでう蝕リスク要因に違いがあるかを χ^2 検定で分析した。さらに質問内容の回答項目を2水準に分類したものを説明変数、むし歯の有無を目的変数とする名義ロジスティック回帰分析を行い、交絡因子や影響因子を調整したうえで、14市全体および市ごとのう蝕の有無に影響の強い要因を同定した。

その結果、14市間にう蝕の地域差が認められた ($p < 0.001$)。う蝕があると回答した割合が最も高い市で25.6%、最も低い市で9.7%であった。生活習慣等の要因については、噛みごたえのある食べ物の摂取、テレビやビデオを見ながら食事をする習慣、甘いお菓子の摂取、甘い飲み物の摂取、フッ化物配合歯磨剤の使用に地域差が認められたが、よく噛んで食べる、保護者の仕上げみがきには地域差は認められなかった。ロジスティック回帰分析の結果、14市全体で有意なオッズ比が得られたう蝕の有無に影響を与えるリスク要因は、性別、出生順位、テレビやビデオを見ながら食事をする習慣、甘いお菓子の摂取、甘い飲み物の摂取、保護者の仕上げみがきであった。14市全体のロジスティック回帰分析でリスク要因として有意なオッズ比が得られたのは、性別、出生順位、テレビ等を見ながら食事をする習慣、甘いお菓子を食べるか、甘い飲み物を飲むか、保護者の仕上げみがきをするかであるが、市ごとのロジスティック回帰分析からは、9市においてリスク要因として出生順位等に有意なオッズ比が得られたが、5市においてリスク要因は検出されなかった。有意差が認められた要因は全体のものとは異なり、市ごとに特徴があった。

今回の研究により神奈川県14市間にう蝕の地域格差が存在し、そのリスク要因は市別に特徴のあることが示された。しかし、地域差のある生活習慣等の要因の良否の順位がう蝕順位に反映するものではないと考えられた。今後はこれらの要因の背景を分析するとともに、地域の生活者の歯科保健指導に活用し、3歳児のう蝕地域格差の縮小につなげていく必要性のあることが示唆された。